



創立の背景と歴史

病を得たシェラーは帰国しますが、1900年(明治33)C・L・ブラウン、J・M・T・ウィンテルなど、新たな宣教師も来日。C・K・リップード、さらにフィンランドからウェルローズ、クルヴィネンが長崎に上陸。クルヴィネンは佐賀に合流してフィンランド福音ルーテル協会(SLEY)としての宣教の一步を踏み出しますが、1904年(明治37)に日露戦争が勃発したため、伝道の拠点を信州・下諏訪に移します。

ルーテル派はドイツで興りましたが、陸続きのデンマークをはじめ北欧諸国に広がりました。飢饉などで何度も大規模な移民が行われた結果、アメリカやカナダにも信徒を増やしていきます。

ルーテル学院の前身となる路帖神学校の初代校長は、アメリカ・ノースカロライナ州出身のチャールズ・ラファイエット・ブラウンでした。南部一致ルーテルシノッド海外伝道局の強い招聘により来日、1909年(明治42)に路帖神学校の初代校長となり、九州学院の校舎建設の監督の重責も果たしました。1921年(大正10)東アフリカ、インド、西アフリカを視察中、腸チフスと合併症により天に召されました。

デンマーク出身のヨルゲン・ペーター・ネルセン(1877~1963年)は、久留米の伝道活動に従事したのち、熊本の神学校に赴任。アンナ夫人は音楽を教えました。1921年(大正10)には九州学院神学部の主事となり、東京への移転においては海外伝道局との交渉役を務めました。健康上の理由で帰国した翌年にアンナ夫人が逝去しています。

エドワード・トレイル・ホールン・ジュニア(1887~1966年)はアメリカ・サウスカロライナ州出身で、九州学院で教鞭をとり、名古屋の開拓伝道にあたります。1920年(大正9)の再来日後には九州学院のチャプレンに就任のち日本ルーテル神学校教授として上京、1929年(昭和4)神学校校長に選任されました。校長として中野・鷲宮キャンパスの本館建築の企画と工事を監督しました。

アーサー・ジュリアス・スタイワルト(1881~1968年)はアメリカ・バージニア州出身で、九州学院とその前身である熊本高等予備学校の校長となりました。関東大震災のときには、罹災した高齢者や母子のために奉仕し、東京老人ホームとベタニアホームをつくっています。アリス夫人は病没し、多磨霊園に葬られました。終戦後に帰任、東京教会でULCA宣教師として働き続けました。

1941年(昭和16)日本基督教団結成に際して第五部に参加し、2年後には神学校も日本東部神学校となりました。しかし、戦争が終わって部制は廃止され、1947年(昭和22)旧・ルーテル教会の牧師有志は熊本で臨時総会を開いて、教団離脱を決議。独自の道を歩み始めます。

なお、1953年(昭和28)からは在日ルーテル系ミッションの合同運動が起こり、スオミ・シノッドとオーガスタ・シノッドが旧・日本福音ルーテル教会と合同し、さらには1963年(昭和38)には東海福音ルーテル教会も合同して、新たに日本福音ルーテル教会を発足させました。

また、1969年(昭和44)ルーテル教会は海外教会に依存しない方針を決意、各個教会と全体教会事務局の自立を画して1974年(昭和49)にその目的を達成しました。



初代校長 Charles Lafayette Brown (1874~1921年)
熊本のスタイワルト邸を仮校舎として
路帖神学校が開校したときに、初代校長となりました。



創立

日本福音ルーテル教会の宣教は、1892年(明治25)アメリカ・ルーテル教会南部一致シノッドから二人の若い宣教師が派遣されてきたところから始まりました。2月に築地居留地に入ったJ・A・B・シェラーはお雇い外国人として九州の佐賀中学に英語教師の職を得ます。11月に来日したR・B・ピーリーは、山内量平が校長として新設される英語学校の教師としてやはり佐賀に赴任します。1893年(明治26)シェラーとピーリー、山内量平が復活祭に佐賀で守ったのが、日本福音ルーテル教会における最初の礼拝となりました。山内量平というのは植村正久の妻 季野の兄で、アメリカ・カンバーランド長老教会の最初の宣教師J・B・ヘールから洗礼を受け、のちに按手礼を受けて日本福音ルーテル教会の最初の邦人牧師となった人物です。深川教会の長老となって植村の働きを助け、その発信媒体であった『福音新報』のサポートもしています。神官の家系に生まれたこともありキリスト教への反発が強くなりましたが、その後、信仰に目覚め、妻の幹枝と共に佐賀、久留米の開拓伝道に尽力しました。1895年(明治28)には明治学院時代の山内の友人で、山内夫妻の養女あやと結婚した山内直丸(旧姓鈴木)が開拓伝道に加わっています。1898年(明治31)山内量平を牧師として日本福音路帖教会が組織されます。

教会設立に続き、1909年(明治42)熊本のスタイワルト宣教師の一室で路帖神学校が開校されました。神学校の開校と並んで計画されたのが、九州学院の設立(1911年)でした。1921年(大正10)九州学院神学部(予科2年本科3年)が専門学校として認可され、1925年(大正14)には東京・中野区鷲宮に移転、(日本ルーテル神学専門学校)(旧制)に名称変更しています。

戦時中は、日本基督教団結成に際して統合されますが、1950年(昭和25)(日本ルーテル神学校)として再開され、1964年に日本ルーテル神学大学・日本ルーテル神学校の6年制、1996年に校名を(ルーテル学院大学)に改称し、現在は一学部(総合人間学部)三学科(キリスト教、社会福祉、臨床心理)と大学院二専攻、および4年制の(日本ルーテル神学校)へと改組しています。

建学の精神

「キリストの心を心とする」
(ピリピ書2章5節)

ルーテル学院の使命(ミッション)は、「一人ひとりを大切に教育」を通じて、「キリストの心を心として神と世に仕える」人材を育成することにあります。

これは学校法人ルーテル学院を構成する、ルーテル学院大学、同大学院、日本ルーテル神学校を指し、その設立の精神と社会的使命とを共有し、共通の課題をになっています。

それぞれの専門分野における使命は、この共通の使命の個別的側面です。



ルーテル学院大学 校章・マーク
十字架を抱き込むように交差して二つが結び合わることで「私たちが数多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのである」(ローマ12:5)ことを表わし、外輪の円は神による完全を、創立年は名称が変わっても永年の伝統と建学の精神が今日まで継承されていることを表わしています。

学校法人 ルーテル学院

〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20

TEL : 0422-31-4611 FAX : 0422-31-6405